

地域での活動



NPO法人レッド・ベレーズ

「レッド・ベレーズ」…変わった名前だけど何の団体?とよく聞かれます。

赤いベレー帽の複数形。聴力障がい者と聞こえる人が交流するハイキングクラブです。山の中は道が枝別れしていて、たくさんのハイカーが歩いています。うっかりするとコースから外れて他の人のあとについて行ってしまいます。そんな時そっちは違ふよと大声をかけても、聞こえないからどんどん行ってしまいます。どこに仲間がいるかわかるように目立つ帽子を目印にしました。しかし派手すぎて恥ずかしがってかぶってくれません。

「なんだ!聴力障がい者の遊び会なのか?」…いいえ違います。真面目な目的を持っています。耳が聞こえない障がいは、いろいろな障がいの中でも理解されにくい障がいです。見た目は普通の人と変わりがないからです。けれども、聞こえないためにコミュニケーションができない。これは情報が入ってこないことなので、世の中に取り残され、孤独になりがちです。そんな弊害を無くそうと、聞こえる人たちとの交流を目的に1985(昭和60)年に立ち上げました。長く続けられ、あまり費用もかからず、楽しく過ごせるハイキングに決めました。

発足以来26年間、毎月1回(第3日曜日)の例会は欠かすことなく続いています。一日一緒に歩くだけでお互いに親しくなれるので手軽なボランティア入門コースかもしれません。健康のためにもあなたも一緒に歩いてくださいませんか?

ご興味のある方はぜひ私達のホームページをご覧ください。例会ハイキングだけでなく多彩な行事を行なっています。テニスや歩こう会、手話の学習もできます。2011(平成23)年は阿波踊りにも参加しました。「美手楽連」(みてられん)17名のうち8名が障がい者です。大きな太鼓の音を身体で感じて、聞こえる人の足元に合わせて踊りました。

<http://www.red-berets.com/>



泉南市立鳴滝小学校「認知症キッズサポーター」のとりくみ

泉南市では、認知症について正しい知識をもち、認知症を発症しても安心してらせるように、地域ぐるみで支える体制を創ることを目的とした認知症対策プロジェクトを進めています。2011年3月末現在、泉南市では、認知症の方やその家族を見守る「認知症サポーター」が約2000人誕生しています。そのなかで、泉南市第1号のキッズサポーターとなったのが、本校の子どもたちでした。

本校の校区には、地域の高齢者が集まる「ほしぞらふれあいハウス鳴滝」(通称「ほしぞら」)があります。ほしぞらは、「ふれあい喫茶」として運営され、配食サービスも行いながら、高齢者の健康状態を確認し、誰もが安心して暮らせるまちづくりをすすめています。本校でも「ほしぞら」スタッフとの出会いから、まちづくりにかける思いと生き方に学ぶ学習を進めてきました。

今の子どもたちが生きる10年後、20年後の社会を考えると、地域のなかで高齢者を支えあう時代が必ずやってきます。しかし現実には、施設への入所や、介護を受けるなど、家族の一員としても、その存在が「ないもの」とされている高齢者もいます。その意味からも子どもたちが高齢者とともに生きるまちづくりに参画する経験が大事だと考えました。

そこで、高齢者問題の現実を知った子どもたちが、自分たちができるまちづくりとして、「認知症キッズサポーター」への参画を考えました。「認知症サポーター研修」では、認知症の方への関わり方やその予防体操「WAO体操」を学びました。「特別なことはできなくていい、ただそばにいてだけで、自分たちは力になれる存在だ」ということを知った子どもたちは、泉南市第1号のキッズサポーターとして、認知症への理解を深める活動を始め、泉南市認知症フォーラム「WAOまつり」では、ほしぞらスタッフとともに「WAO体操」を発表しました。

昨年度から始めた認知症キッズサポーターのとりくみは、2011年度の今年の子どもたちにも引きつがれています。

誰のための何のためのまちづくりなのか、常に子どもたちと点検しながらまちづくりのとりくみを進めていきたいと考えています。

